

ノーサイド

北原巖男

新年当初、真っ白でスタートした皆さん自身の「カノンパス」は、今それぞれオンラインワンの世界を創り出しています。それは、皆さんのこの1年間の「挑戦」の証。

皆さんも多かったことで組んでいる隊員の皆さんも沢山います。「なんでこんな地元から責め立てられなければならないんだ」と嘆きたくなることもあるでしょう。

国民の自衛隊員として、士気高くさまざまな任務に取り組んで来ている皆さん。特に今年は、酷暑の中、台風や豪雨をして地震が怒涛の如く襲い掛かって来ました。地元の自治体・警察・消防隊員と共に真っ先に駆け付け、懸命に救命・救助活動等に「挑戦」して来

他方、敵に反省し二度と生起させてはならない不祥事案の生起もありました。故意、怠慢は言うに及ばず、どんなに小さな過失であっても、断じて看過しない繰り返さないのが自衛隊員としての誇りです。

平成最後の12月も残り少なくなりました。読者の皆さんの2018年師走。「あっとい間だったなあ」それとも「やっただ」でしょうか？

でもそれは、皆さんが地元の皆さんに真に寄り添っている証なのです。地元の皆さんの心配や痛みを少しでも共有しようとする努力を続けながら、真摯に、とことん誠実に、丁寧に丁寧に向き合い理解を求めて行く。整った直線道路ではなく、お互いに曲がりくねった障害物のある道を一歩一歩進むことになっても、相互理解を尊重しつつ、真の立場を尊重しつつ、真の理解を得るため、日々に「挑戦」する者同士。

すぐには思い出せないほどいろいろな出来事や、辛いこと嬉しいこと悲しいこと感動したことなど、生涯忘れられない体験もされたのではないのでしょうか。テレビや新聞報道を見ながら、声援を送っている国民

新しい扉を開く日が来ることを確信しています。地元には、地元のことを一番理解しているのは、防衛施設行政に邁進している隊員の皆さんを置いてほかにはいません。大変ですが、皆さんにはそれが可能なので「挑戦」、自衛隊員としての「挑戦」そして防衛省・自衛隊は、これからは、新しい「防衛計画の大綱」と「中期防衛力整備計画」に基づいて、益々複雑高度化・高速化する防衛任務の責任を果たして行くこととなります。宇宙やサイバー空間、人工知能(AI)、レーザー、日米同盟、少子化、女性自衛官、予備自衛官、定年引上げ等々。どんなときも組織は人で、隊員の皆さん一人ひとりが使命を自覚し、錬成し、

YES, TO BE CONTINUED

CONTINUED

北原 巖男

(きたはらいわお)

防衛施設庁長官、元東ティモール大使。現(一社)日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会理事